

## ☆ ハンドボールを応援していただく方へ

### ■ ハンドボールを通じて、自立の第一歩

ハンドボールを通じて「自立した選手」を育てていくことが大切であると考えています。「自立」しているというのは自分自身で判断し、責任をもって行動する、ということです。自分自身がやりたい、やったほうがいいと思うからやる。失敗も自分の判断によるものと考えられるようになることが大切であると思います。



### ■ ハンドボールと学校とのバランス

ハンドボールでも、勉強や、学校の生徒活動や当番などの他の活動を無視してハンドボールだけに打ち込む子ども（選手）がいます。大成するためにはライバルたちの倍以上の努力と時間が必要であると考えるのが当たり前ですが、バランスが第一です。

子ども（選手）が「ハンドボールだけしていればいい」と他のことをしなかったらただす必要があります。ましてや大人が「ハンドボールさえしっかりやれば〇〇大学に入れる」などと仕向けるのは論外です。ですから、学校での活動も積極的にやり、勉強もしっかりやる。そして家の手伝いもさせ、家族の一員、クラスの一員、学校の一員ということを認識させる。そうすればその子（選手）の周りのみんなが応援してくれるはずですよ。

### ■ 根本的な部分へのアプローチ

自分で判断をする。その判断に責任を持つ。そしてみんなで協力して状況を解決していくために自分の考えたことを相手に伝える。当たり前のようではなかなかできないことです。ですから普段から「自分で考え、判断し、行動する」ことが大切であり、それが「自立」につながっていくのです。

### ■ トライ & エラー

スポーツではベストを尽くすことが大切です。しかし、スポーツにおいては、勝敗がいちばんわかりやすい価値でもあります。自分の子ども（選手）のチームに勝って欲しい、応援にすっかり熱が入り、子ども（選手）たち以上に喜び、負ければがっかり、これは自然な姿です。子ども（選手）たちには勝ってうれしい、負けて悔しいという気持ちは大いに持ってほしい。負けん気をもって、がんばって欲しいと誰でも思います。でも残念ながら悔しさのあまり、相手チームにヤジや文句を言う大人の姿はまれではありません。

大人は、冷静にしっかりコントロールされた気持ちでいなければなりません。勝利は、成功経験につながります。成功経験は子ども（選手）の成長を大きくします。

勝ってうれしい、負けて悔しい、と子ども（選手）が自分の中で勝敗を消化して処理できるように、そして勝ち負けも次に向かってポジティブに自分の糧にできるように、大人は手助けしましょう。大人のほうがムキになって、勝敗を適切に受け入れられないようでは困ります。

## ■ チームへ協力する心の育成

一般的に部活動には保護者の協力が必要不可欠です。保護者の方々の一生懸命な応援や献身的な協力のお気持ちは大変ありがたく、選手の励ましにもなります。

顧問の考え、チームの方針を理解した上で求められていることを確認することが大切です。一番重要なことは「子ども（選手）たちの成長に一番いいこと」をすることです。あくまでも子ども（選手）の活動のサポートが保護者の役目であることを忘れずに、大人同士で考え、話し合い、カバーしあっていくことが大切だと考えます。

また、ハンドボールをやっていた保護者の方々若い頃に自分がハンドボールをやっている、つつい子ども（選手）がやっていることが気になって、「そうじゃない」「左へパスを出せ」などと指示を出したり、口を出してしまいがちです。また、チームや指導者（顧問）に対しても「俺が若い頃はもっと・・・こうだった」「もっと厳しく練習しないと・・・」「あの戦術じゃだめだ」などといってしまう方もいます。練習や戦術などは監督もしくはコーチに任せることが子ども（選手）と指導者との信頼関係を築き、ひいては子ども（選手）の成長を促すはずで

## ■ 相手チーム・レフリースへのリスペクト（尊敬）



ゲームに勝って喜び、負けて悔しがる。シュートが決まって胸を張り、ミスしてしまつて肩を落とす。そんな我が子（選手）の一喜一憂がいとおしく、何とかしてあげたいと思うのが親心です。しかし、我が子への可愛さ余つて自分の子どもだけの個人的なサポーターになったり、ファンになったりするの

は慎むべきでしょう。近年、特に保護者の応援合戦は加熱しています。チームの勝利を願うばかり、他の子ども（選手）のミスに対して罵声を浴びせたり、また、相手チームやレフェリースに対して

もヤジを飛ばしてしまうことも多々見受けられます。自分の子どもまたは、チームへの愛着心とはいえ、学生スポーツの場では特にそぐわない光景です。ハンドボールというスポーツだけでなく、スポーツ全般にいえることがありますが、相手がいなければ試合は成り立ちません。またレフェリースも同じです。みんながそろつて試合が成立するのです。相手を、またレフェリースを、そして自分のチームをリスペクト（尊敬）して応援することが最も重要です。主役は、子ども（選手）です。勝つても負けても大きな拍手。いいプレーには味方、相手関係なしに拍手。そんなすてきな応援が子ども（選手）だけでなく、ハンドボール界を支え、盛り上げることにつながることと思います。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。